

問

し尿問題早く解明しておけば平成19年・20年の被害はなかった

答 その段階では事件性を明白に出来なかった



伊藤 一郎

問

し尿問題不正の実態

平成15年～17年、金券であるし尿券が不正に市内に流れる。7万6858枚、被害想定額1614万180円。

平成17年8月～18年3月、し尿券取扱たばこ店調査でし尿券購入領収書7件が未納・4700枚、被害金額93万5300円。平成20年6月～8月、家庭で保管されていた汲取り領

収書131件の内25件が不正。対象家庭の被害11万2000円。

平成18年6月28日し尿問題発覚時、議会になぜ報告しなかったのか。この時に徹底的に解明しておけば平成19年・20年の市民の被害はなかった。

市長

犯罪性が高いと判断し捜査願を出したが、被害額が確定していないので受けられないとのこと、警察へ口頭での捜査依頼となった。色々な情報があったが、確認するべきがなかったため、その段階では事件性を明白にできなかった。

問

意図的に隠蔽し解決を先送りしたのですか。

市長

隠蔽しようとするならば当初警察に捜査の依頼をする必要はない。

問

次期の進退表明は

答 責任の重さ痛感、前向きに・・・



藤原 憲男

問

定額給付金は国民の関心も高く、賛否も分かれていますが本市でどう論議していますか。効果の上がる運用等を主張すべきで、格好の政策課題として論争していただきたい。一律支給でいいのですか。

市長

自治体の負担等も含め、市長会等で混乱のないよう申し入れています。概ねの運用方法も示されたが、残念ながら市の裁量で施策に活かせるところはほとんどありません。

問

任期満了まで数カ月となりましたが、初代宍粟市長として成果や反省など所見を伺います。また次期への進退を表明すべき時期がどうでしょうか。伏魔殿のようなし尿券問題解明のさ中ですがどうされますか。

市長

宍粟は一つという思いの中で、それぞれの年度を計画の年、行革初年度、実行の年等々と位置付け必死で取り組みました。新庁舎や情報通信基盤整備など主要施策を進める中で、財政の健全化を最重要課題としています。まさに道半ばだと思っており、し尿券の問題も早期に厳正な処断をします。全身全霊を傾けて残任期に取組みます。次期についてはこれら責任の重さを感じ、前向きに検討していきたいと考えています。



パキュームカー



整備が進む情報通信事業